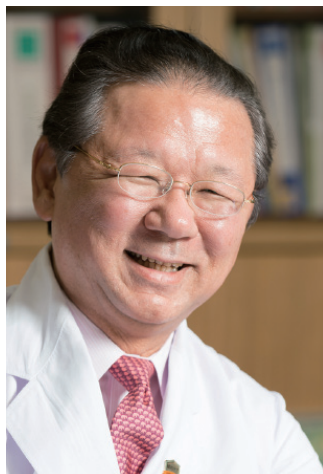


Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター



院長PROFILE

谷山 清己 (たにやま きよみ)

1978年広島大学医学部卒業。

2000年広島大学医学部臨床教授、2002年国立病院呉医療センター・中国がんセンターを経て、2014年同センター院長に就任。広島大学医学部客員教授、日韓細胞診合同会議日本側代表を務める。

「和顔愛語」の精神で、相手の心情に寄り添う愛のある医療を笑顔で実践します（理念）

当院は運営方針キーワードとして「LOVE and SMILES」を掲げています。重要なのは、医療の原点をしっかりと踏まえて、患者さんにとってわかりやすく、説得力のある医療、つまり患者さんの心情に寄り添う医療をしていくことだと考えます。それには笑顔も大切でしょう。最新・最先端の医療をすると同時に、心が備わっているものでないといけないと思います。

私は診断を専門とする病理医ですが、20年以上外来診療を担当しています。診断内容を丁寧に伝えると、患者さんはすごく気持ちがしっかりと、困難な治療に前向きに受け入れていくという気持ちになるのです。「仁術」という言葉が昔からありますが、これは最高の徳を行うことです。患者さんの心情を考えて寄り添い、そして患者さんのためになる愛のある医療をするという意味合いです。私はそれをずっと実践してきて、また実際に振り返ってみた時、やはりこれに尽きると思いました。基本的に病院理念は、「医は仁術なり」という言葉と一緒になんです。それを今、皆に呼びかけているところです。

医者教育という点の特徴を挙げると、当院は実践病院として、しっかりと診療責任体制は取るけれども、研修医が最初から主体的に診断・治療を行うようになる体制があります。ですので、2年間、当院で研修すると、他の病院で研修している同級生に対して、「負けたと思う気持ちには絶対にならない」そうです。これは

卒業生皆が言っています。それだけのことはできるように教育しているという自負があります。

2年生が1年生を教え、後期研修医が2年生を教えるという屋根瓦方式を採用しており、実際それが本当に良い診療経験になっています。また、いろいろなことをお互いに勉強できるという場として、症例検討の発表会「クリニカルフォーラム」を年に3～4回実施しています。それに加え、この数年間は、約半数近くが海外発表も経験しており、海外発表することの意義とやりがいを教えています。自分が取り組んだことを発表して、それをまたほかの人が共有する。これは知識や情報の伝達であり、研修医が早い時期に身に付けるべき技術です。

地域で活躍することはとても大切ですが、国際的にも通じる能力やポテンシャルを養うという意味で、和文論文作成だけでなく、英文論文作成も指導しています。最近、当院のスタッフ51人と機構本部理事1人による英文学術書籍を発刊しました（Advances in Modern Medicine, Bentham Science, 2017）。研修医も、看護師も、ベテランドクターも執筆していて、当院並びに国立病院機構の国際性や高い学際性を表しています。日本語での執筆はもちろん重要ですが、今の時代、英語で書くことも非常に大切です。多彩な経験にチャレンジできる病院ですので、志が高ければ高いほど、高みに上がっていけるのではないのでしょうか。やる気のある、志を持っている人にぜひ集まってもらいたい。十分な手応えを得られる病院だと思います。

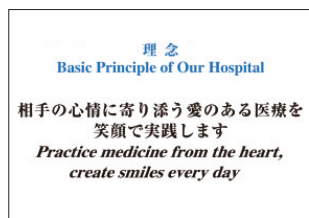
呉医療センター・中国がんセンター DATA

■ 所在地
広島県呉市青山町3番1号
<http://www.kure-nih.go.jp>

■ 病床数
700床（一般650床、うち救命救急センター30床・NICU6床・緩和ケア19床、精神50床）

■ 診療科目
内科／内分、糖尿病内科／腎臓内科／血液内科／腫瘍内科／精神科／神経内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／小児科／外科／消化器外科／乳腺外科／整形外科／形成外科／脳神経外科／呼吸器外科／心臓血管外科／小児外科／皮膚科／泌尿器科／産科／婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／頭頸部外科／リハビリテーション科／放射線診断科／放射線腫瘍科／緩和ケア科／歯科／歯科口腔外科／病理診断科／麻酔科

■ 研修の特色
1年目は内科系、救急を中心に研修。2年目は将来専門とする診療科を中心に関連の診療科、または選択必修の科をすべて研修します。問題指向型のカルテ記載、EBMに基づく治療などを習得、実践。数多くのカンファレンスで知識を共有し「呉クリニカルフォーラム」で発表能力を養成。OPCレポートを1人1症例担当し、総合的学習と重点的学習を体験、文献整理能力を習得します。



病院理念



運営方針



正面玄関



夕暮れに映える、海上自衛隊呉地方総監部 旧呉鎮守府庁舎

呉医療センター・中国がんセンターのある街

かつて東洋一の軍港。映画「この世界の片隅に」の舞台にもなった呉市

呉市は広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面した人口約22万人の臨海都市だ。戦前は呉海軍工廠で、戦艦「大和」がつくられたことでも有名。東洋一の軍港・日本一の工廠としても知られる。

呉医療センター・中国がんセンターの目の前にある呉市入船山記念館は、国の重要文化財の呉鎮守府司令長官官舎や東郷平八郎が呉に在任中の住居の離れを移築した建物がある。

呉における造船の歴史が学べる大和ミュージアムには、入ってすぐ大和の模型がある。ぜひそのスケール感を感じて欲しい。大和の設計図や建造の様子、海軍や呉の歴史などの資料も展示。本

物の零戦もある。呉のグルメで有名なのが「海軍カレー」。ここでは現在の海上自衛隊の艦艇で提供しているカレーと同じレシピでつくった「海自カレー」を食べることもできるそうだ。また海上自衛隊呉資料館、別名鉄のくじら館では潜水艦の内部を詳細に見学できる。これらの防衛・軍事関連施設は呉市の観光資源にもなっている。

本物の潜水艦が停留している様子を間近に見られる日本唯一の場所が「アレイからすこじま」。小さな公園だが、日によっては数隻まとまって停泊していることもあり、知る人ぞ知るスポットとなっている。

